

式 辞

令和5年度第2学期終業式

2学期を振り返ると、体育大会、文化祭、総合研究全体発表会などの学校行事がありました。北条高校の生徒が生き生きと活動する場面を多く見ることができ、うれしかった思い出がたくさんあります。2学期始業式で話した「内なる自信」が、皆さんの中に増えていることと思います。

今回は、「終わり始まり」についてお話しします。今日は2学期の終わりの日です。あと10日ほどで1年の終わりの日になります。続いて新年が始まり、3学期が始まります。2学期も1年も、始まりと終わりに区切られた時間のまとまりです。もともと切れ目のない自然の時間の流れに、人間が区切りを設け、終わり始まりを作ったということです。

人間が時間に区切りを作った理由は、これまでと今とこれから、言い換えれば、過去と現在と未来を区切って、考えやすくするためだと私は思います。区切って考えることにより、今の自分が過去の自分を振り返り、未来の自分を意志を持って改善したり向上させたりする可能性が高くなります。そうやって人間は進歩し、進化してきたのだと思います。つまり、人間は自らの力で未来を作ることができるという意志への信頼がそこにあるのだと思います。

これと同じような言葉を残した、エリック・バーンというカナダの精神科医がいました。彼は、「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」と言いました。有限の人生の時間の中で、思うようにならない他人や変えられない過去に意識や気持ちにフォーカスして生きることもし、自分と未来にフォーカスして生きることもし。選択するのは自分である。ということでしょう。ここにも、意志への信頼があるように思います。

北条高校生の皆さん、意志があれば自分と未来は変えることができます。皆さん一人一人がそれぞれの意志を自分らしく発揮することを期待して、第2学期終業式の式辞とします。

令和5年12月20日

愛媛県立北条高等学校長 渡邊 俊